



カッパコーラス部 美声を披露

合同コンサート 専修、明治、日本女子の3大学による合同コンサート(多摩区・3大学連携協議会主催)が11月17日、多摩市民館ホールで開かれた。専大からは混声合唱団カッパコーラス部(羽田光代表・文3、部員40人)が出演し、「君に届け」「青い鳥」など5曲を合唱=写真。美しい歌声を披露し、約400人の聴衆から大きな拍手を浴びた。

羽田さんは「大勢のお客さんの前で発表することができ、とても感動した。メンバー全員で、歌の楽しさを伝えられるようにと心がけた」と話した。

多摩区と3大学が連携

人気の和洋菓子販売した「多摩区屋さん」

たまなびに参加した6人



川崎市多摩区にキャンパスがある3大学(専修、明治、日本女子)の「たまなび1日子ども商店街」を開催した。晴れ渡った秋空の下、大学生と小学生が「おだんごは6人が参加。11月17日にいかがですか」「エコバッグをつくってみませんか」と元気がいい呼びかけ、訪れた人々を楽しませた。

「たまなび」は多摩区・3大学連携協議会が「多摩区を知り、学び、実践する」ことを目的に行っている

半年間のプログラム。参加したのは大内愛未さん(商4)、竹村亮亮さん(経営4)、田邊匠さん(経営4)、寺本祐基さん(文2)、大野真実さん(文1)、内藤優香さん(文1)。イベント当日までに地域の商店街の人たち、他大学の学生、小学生らと企画や運営方法について話し合った。

子ども商店街は、向ヶ丘遊園駅近くの地域イベント「登戸まちなか遊縁地」の中で実施。川崎市内で作られた食べ物を販売する「多摩区屋さん」、インスタントカメラを使った写真屋など4店を出店した。野菜スタンプで特製エコバッグを作る店のリーダーを務めた田邊さんは「協力し合いながら同じ目標に向かっていく楽しさを実感することができた」と話す。

大内さんは、子どもが喜ぶゲームを作る学生団体を立ち上げ活動しており、子どもたちの気持ちや関心を直接知りたくて「たまなび」に参加した。活動を通して「子どもたちの創造力は予想以上。モノがあまりない方が自発性、柔軟性が出ることを知った」と語った。

店員として参加した5年生の女兒は「大学生のお兄さん、お姉さんからいろいろなアドバイスをもらった。みんな親しみやすくとても楽しかった」と目を輝かせていた。

たまなび「子ども商店街」 学生6人が出店に協力

ベンチャービジネスコンテスト

松木さんが鳳賞

第17回専大ベンチャービジネスコンテストのプレゼンテーション大会が12月1日、生田キャンパスで開かれ、松木温子さん(商3)が最優秀の鳳賞に選ばれた。昨年に続き専大附属高校(東京都杉並区)の生徒6人が参加したチーム(代表=池原美穂さん・文3)が健闘し、育友会長特別賞を受賞した。

専大附高チーム 育友会長特別賞

今回は専大附属高校の4チームを含む41組が応募し、1次(書類)と2次(プレゼンテーション)の審査を通過した12組31人が本選に出場した。

鳳賞の松木さんは「小さな人と人のつながりを経済化する」と題し、学生など地域の若者が高齢者の日常生活の困りごとを手助けするマッチングサービスを提案した。

利用券(謝礼)は加盟店で使える独自発行の地域通貨とし、地域の経済振興にも一役買う。長屋暮らしの人々が支え合った江戸の共生社会をイメージしたといい、「超高齢化社会に向けて支え合いの文化を育み、地域経済活性化にもつながるビジネスを展開したい」と笑顔で発表した。

遠山浩キャリア教育企業が審査員を務めた。



イラストを用いてプランのイメージを説明する松木さん

画室長(経済学部教授)、池本正純名誉教授、本学卒業生の企業家ら15人の審査員は「社会的に意義がある」「スマートフォンを使わず電話やコンビニの店頭で申し込めるのが高齢者に優しい」などが高く評価された。

松木さんは福島県会津若松商業高校でマーケティングを学び、起業家教育が充実した専大に入学を提案した。

と評価。「安否確認など他のサービスを付加してはどうか」というアドバイスも寄せた。

松木さんは福島県会津若松商業高校でマーケティングを学び、起業家教育が充実した専大に入学を提案した。



起業について学ぶ部員たち

昨年最優秀賞の麻生さん 起業家サークル立ち上げ

昨年のベンチャービジネスコンテストで最優秀賞に輝いた麻生萌泉さん(経営2)は今年、仲間とともに起業家サークルを立ち上げた。働くことの意識を高め、起業を目指す学生同士助け合いたいと研さんに励んでいる。

サークル名は「Pay forward(ペイフォワード)」。受けた恩を別の人物への新しい親切でつないでいくことを意味する。自分が起業して終わりではなく、そのノウハウや支援の鎖を、後輩にずつつないでいきたい」と麻生さんは語る。

創立メンバーは、キャリアアップを語り合う麻生さん(左)と安井さん

リアデザインセンター主催の起業講座の受講生が中心。現在のメンバーは約20人。起業の知識を得るため、専大OBの経営者を訪問したり、事業計画書を作成する講座を開催したりするなど、意欲的に活動している。

メンバーの一人、安井春哉さん(経営3)は、経営者の父親の背中を見ながら、起業に興味を持ってきたことで、起業に興味を持ってきた。実際に今年4月に営業の会社を立ち上げたが、現在は事業内容を変更すべく取り組んでいる。

組んでいる。「切り替えができるのが学生の強み。いろいろなところに出かけていって、社会人から貴重な話を聞くことで自分の幅を広げたい」と話す。

ベンチャービジネスコンテスト優勝から一年たった麻生さんは「アイデアは思いつくが、実際に形にしてお金をいただくのは大変なこと。少しずつでも経験を積み、輪を広げていきたい」と前を向く。起業のほか、商品開発や貧困問題改善のためのビジネスなど、興味がある。起業のハードルはまだ高いが、みんなできると信じている」と話している。